

災害安全②

「ハザードマップ」の活用を通じて、風水害時に適切な避難行動がとれるようにする学習事例

中学校 特別支援固定学級 教科等（生活単元）

単元（題材）について

1 題材名 水害時の避難経路を確認しよう

2 安全教育上の目標

Ⅲ - 4 気象災害時の安全

水害時において、自宅がどのような被害が起こりうるかを理解し、避難場所を確認することで、迅速で適切な避難行動がとれるようにする。

3 教材化の視点

本区は河川の隣接地域に位置しているため、地震等に加え近年多発している風水害への対応も求められている。生徒の自宅の所在地によっては、地震時と風水害時では避難場所が異なるなど状況に合わせ、適切な判断をとる必要がある。さらに本区には急傾斜地があり、がけ崩れの危険想定区域に自宅が隣接している生徒もいる。本授業では、生徒一人一人が各災害時にどのような行動をとるべきかを知り、実体験を通じて、緊急時に落ち着いて適切な避難行動をとることができる力を養う。

指導計画（2時間扱い）

時間	○主な学習活動	◎安全教育の視点に立った留意点
1 (本時)	<ul style="list-style-type: none"> ○昨年起きた台風の被害状況等を画像で確認する。 ○白地図に自宅周辺の想定される被害を色付けする。 ○風水害時の避難場所と避難経路を確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎昨年の台風被害を取り上げ、風水害の被害について考えさせる。 ◎ハザードマップを参考にさせる。 ◎決めた避難場所に、安全で迅速に向かえる経路を見付けさせる。
2	<ul style="list-style-type: none"> ○グループに分かれ、自宅から風水害時の避難場所まで実地踏査する。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎自分で確認した経路が安全で迅速に向かうことができるかを確認する（別の経路も検討する。）。

指導の工夫

地震時における避難場所と風水害時における避難場所が異なることを理解し、状況に応じて判断し、安全に避難する意識を高められるようにする。

指導事例（第1時／2時間）

1 ねらい

風水害で想定される被害を知り、自宅からの避難場所と避難経路を確認することができるようにする。

2 指導の実際

	○主な学習活動	◎支援・留意点 ■評価
導 入	○昨年起きた台風の被害状況を画像等で振り返る。	◎台風発生時、どのように過ごしていたかを想起させる。
展 開	○台風19号接近時に、自分たちの地域ではどのような警報が出たかを振り返る。	◎大雨特別警報が出たことを説明する。（洪水・暴風・土砂災害警戒情報が流れた。）
	風水害時の避難場所・経路を確認し、安全に避難しよう	
	○学区の地図で、自宅の場所を確認し、風水害時に想定される被害を考える。 ○自宅周辺で想定される被害の大きさや危険箇所と避難場所を確認する。 ○水害時の避難経路を書き込む。	◎学区のマップ、ハザードマップ（2種類）を提示する。 ◎地域の防災マップとハザードマップを重ね、被害の大きさや危険箇所を色付ける。 ■自宅における被害を想定し、安全で迅速な避難経路を自分で考えている。
ま と め	○本時の内容を振り返る。 ○次回の授業で実施踏査することを説明する。	◎風水害時に適切な避難場所と避難経路を確認させる。

生徒の学習状況

- 地域の防災マップとハザードマップを重ね、被害の大きさや危険箇所を色付け、安全な避難場所と避難経路を考えていた。
- 風水害時における避難場所と避難経路について考え、次回の実施踏査における調査項目について考える様子が伺えた。

生徒の変容

- 自分や仲間の家の周囲の地形について理解した上で、災害の状況に応じ安全な場所に避難しようとする意識の高まりが見られた。
- 自宅付近の状況から、風水害時における避難の留意点を考えるようになった。